

# 令和2年度 2学期始業式あいさつ

令和2年8月24日

おはようございます。19日からすでに全学年の講座がありましたが、いよいよ今日から2学期が始まります。

1学期の終業式の挨拶で「自分を大切にしてください」と話しました。この夏休み中、大きな事故もなく、こうして全校生徒の皆さんに話が出来たことを何よりもうれしく思います。

新型コロナウイルスの影響で1学期は、学校行事が中止・短縮、部活動ではほとんどの大会、コンクールが中止となりました。残念ながら現在も秋田県では少しずつ感染者が増えています。これからの2学期は、通常の学校生活はもちろん、部活動の大会も普通に行えることを願っています。そのためにも、これまで通り、しっかり感染予防策をしながら学校生活を送ってください。厳しい暑さも続きますから、熱中症の対策もお願いします。

間近に迫ったクラス対抗や運動会では、対策をしながら、特別ルールでの実施となります。制約も多いのですが全力で楽しみ、クラスを応援し有意義な行事としてください。

この夏休みに、全学年5日間の講座がありました。3年生は勝負の夏ですから、ほぼ毎日登校し、勉強していた人も多かったのではないのでしょうか。私も講座の様子を見せてもらいましたが、一人ひとりの真剣な眼差しを見て、全員の願いが叶って欲しいと強く思いました。

1・2年生の皆さん、これからは皆さんが中心となって、学校行事や部活動で本荘高校を盛り上げてください。頑張っている3年生の姿を見て、1年後、2年後の自分の姿を想像し、本高生の目指すべき姿である「右文尚武」を実践してください。

最後に、この夏休み中、特にどこへも出かける事が無く、家で過ごした私が、ある本を読み、心に残った言葉を紹介して終わりたいと思います。

その本は、日本で「巖窟王」として知られているアレクサンドル・デュマの「モンテクリスト伯」という作品です。無実の罪で14年間も投獄されますが、脱出後、自分を陥れた人々に復讐を行うのですが、最後は全てを許し、人生の意味を知ります。長い長い物語の最後に、主人公のエドモン・ダンテスが未来ある若者達に言葉を送ります。

「この世の中には、幸福もあり不幸もあるが、一つ状態との比較に過ぎないのです。究めて大きな不幸を経験したもののみ、究めて大きな幸福を感じる事が出来るのです。人間の知恵は、ただこの二つの言葉に尽きます」

「待て、そして希望せよ」 この言葉を皆さんに伝えたいと思います。

どのような苦しいことあるとしても、あきらめず、希望を持ち前に進んでください。

本高生の2学期の頑張りを大いに期待して、始業式のあいさつとします。